



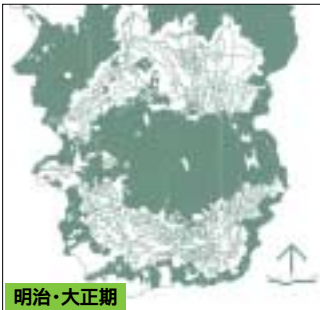
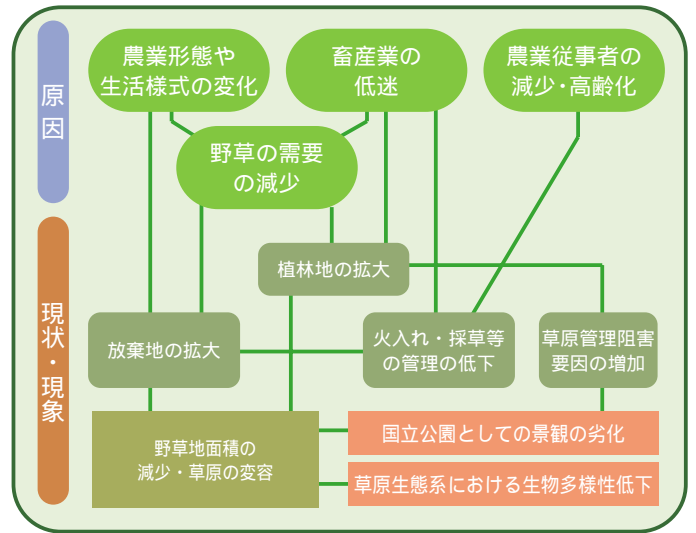
# 阿蘇の草原が危機に瀕しています

フキ

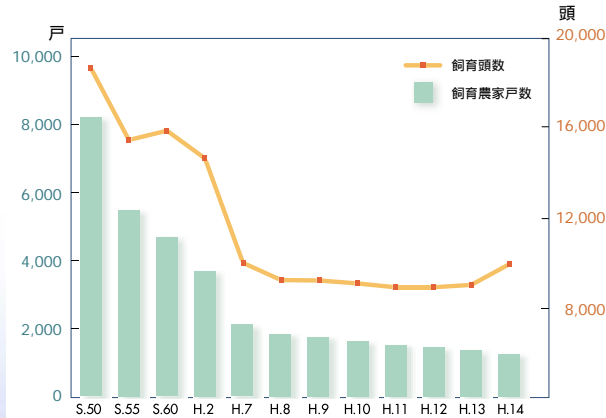
阿蘇の草原では今、化学肥料の普及などに伴う農業形態の変化や生活様式の変化により野草地・茅野などの必要性が低下し、放置され藪化した草原や植林地等が増えています。また、牛肉輸入自由化と価格の低下などの影響による畜産業の低迷、後継者不足・兼業化による農業従事者の減少・高齢化が進み、牧野組合でも無畜農家や非農家が多くなってきました。

このために野焼き・輪地切りといった草原維持のための作業が困難になりつつあり、野草地面積の減少・草原の変容が進んでいます。それとともに国立公園としての景観の劣化や草原生態系における生物多様性の低下などが問題視されるようになりました。

## 阿蘇の草原の現状



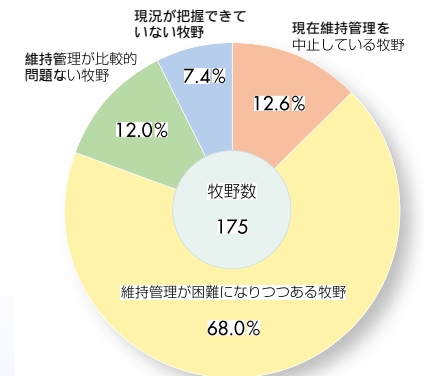
**減り続ける野草地**  
 野草地面積の変遷図：昭和40年代を中心に、植林や改良草地化が急速に進み、野草地が激減。その後も、管理作業の放棄による藪化や、植林地、改良草地、大根畑、宅地などへの転用により、野草地は減り続けている。  
 資料：(財)国立公園協会「自然景観地における農耕地・草地の景観保全管理手法に関する調査研究」(平成7年)



### 放牧頭数の減少

繁殖雌牛飼育農家戸数と飼育頭数の経年変化：近年の畜産業の低迷により繁殖雌牛の飼育頭数は年々減少。平成14年には、飼育頭数は9,880頭、昭和50年の約半数となった。

資料：熊本県畜産統計



### 草原の維持が困難に

牧野組合による草原維持管理現況：草原の維持管理作業が比較的問題ない牧野は、175組合のうちわずか12%にとどまった。

資料：環境省「平成13年度国立公園草原景観維持モデル事業報告書」

